

カニ供養の『蟹満寺』

清水 勝

コロナも少し収まったとして、京都・奈良・近江へ紅葉を求めて出掛けた。まずは京都。大内小学校時代の級友に案内され、祇園新橋通りから細い路地沿いにある粋な割烹『舞扇』に行った。白木造りの店内は明るく、出てくる料理が輝いて見える。越前ガニ、フグ料理、クエ、アワビ等々、最後にはスッポン料理で、目も舌も心も大満足。

翌日は、美味しい越前ガニを頂いたことから、そのお礼と供養を兼ねてユニークな名前の寺『蟹満寺』に向かった。

JR奈良線の無人駅「棚倉駅」に降りたのは私ひとり。駅前で蟹を描いた石碑が迎えてくれた。その近くには湧出宮という神社があり、歴史を感じさせる雰囲気であった。

スマホの地図を片手に小さな集落の続く田舎道を二十分ほど歩くと『蟹満寺』に着いた。一見したところ、どこにでもあるようなお寺と思いきや、見るものが全てカニ尽くしだ。灯籠、お賽銭箱にも蟹が描かれている。本堂もカニの模様や彫刻、カニの像や絵が飾られていた。

本堂で住職から、「今昔物語」巻十六に「山城国女人依観音助遁蛇難語」（山城の国女人、観音の助けに依りて蛇の難を逃れたること）と記された説話の説明を受けた。

内容は、山城の国に慈悲深い女の子が捕らえられていた蟹を救い、後日、大蛇に襲われそうになった時に、多くの沢蟹が蛇を切り刻んで女の子を救ったという「蟹の恩返し」の話で、その時に亡くなった大蛇と無数の蟹の霊を弔うために御堂を建て観音さんを祀ったと蟹満寺縁起に書かれている。

毎年四月十八日は、この縁起に因んで蟹供養放生会が開催され、カニ料理店や水産業者が集まって、毛ガニ、タラバガニを奉納し、サワガニを放流してカニに感謝するカニ供養が行われている。

正直に言って、寺名が珍しいだけで境内は狭く紅葉の樹は一本もなく、期待外れではあったが、蟹への感謝と今昔物語に接しられたのは良かった。

紅葉はこの後に訪ねる『正暦寺』『湖東三山』に任せよう。